

東日本高速道路株式会社 北海道支社
支社長 堀 圭一

質問書に対する回答

(工事名) 道東自動車道 トマム南富良野地区下部工工事

質問事項と回答

番号	質問事項	回答
1	工事用道路の経路について トマム地区より置場から中トマム橋、トマム橋への土運搬経路は、 行き：⑥ 村道上トマム団体線⇒④村道 帰り：②道道夕張新得線⇒⑤、⑥村道上トマム団体線の時計回りの経路と考 えます。この認識でよろしいでしょうか、ご教示願います。	貴社の施工計画でお考えください。
2	特殊部 A1、A2 掘削方法について 左記単価において 軟岩C が含まれています。掘削方法として通常機械です が、ハッパ（割掛けに火薬庫等あり）と考えてよろしいでしょうか、ご教示 願います。	「特記仕様書27-3-3(1)種別」のとおりお考えください。設計図 書を後日訂正いたします。
3	構造物掘削 埋戻しについて 構造物掘削 区分内容の「埋戻し部」には、「締固め」が記載されていま す。すべて埋戻しA として管理する、と考えてよろしいでしょうか、ご教示 願います。	埋戻しBとお考えください。
4	中トマム鶴川橋 A1 橋台仮設図について 左記橋梁の仮設図面 59、60/70、におけるダウンザホール杭のモルタル充填長につ いて。 親杭H=12.0m 断面図（3-3）L=6.327mと表示。断面図（5-5）では、図面 からの読み取り L=2.3m と整合が取れていないようですが、各杭のモルタル 充填長を、ご提示頂けますでしょうか。	モルタルの充填長さは、打込み長と同様とお考えください。設 計図書を後日訂正いたします。

番号	質問事項	回 答
5	<p>特記仕様書 P33 27-6-1 構造用コンクリート X1-1設計図(橋梁工) トマム川橋 下部工 P15, 16/110ケーン底版に使用する水中不分離性コンクリートX1-1 (1) 水中不分離性コンクリートの『配合設計』『配合試験及び評価方法』『打設方法』等の諸基準(品質管理, 施工管理方法)については、『コンクリート施工管理要領』および『土木学会 コンクリート標準示方書』『土木学会コンクリートライブラリー 水中不分離性コンクリート設計施工指針(案)』を適用する事でよろしいでしょうか。ご教示願います。 (2) X1-1 の粗骨材最大寸法について、図面では『25mm 以下』, 特記仕様書では『25mm』と記載があります。 「粗骨材の材料分離を防止するためには25mm 以下とするのがよい」と『水中不分離性コンクリート設計施工指針(案)P17』にあるめ、B1-2(A)と同様に「20mm, 25mm」と、考えてよろしいでしょうか。 (3) 「水中不分離性コンクリートの水中気中強度比は0.7 程度以上が一般的」と『水中不分離性コンクリート設計施工指針(案) P5 2.2 (3) P13』にあります。特記仕様書(P33)にあります割増率は1.25、従って水中気中強度比は0.8となり過少になると考えられます。ご確認頂けますでしょうか。</p>	<p>(1) 「共通仕様書8-2-1適用すべき諸基準」の記載のとおりです。</p> <p>(2) X1-1 の粗骨材最大寸法は「20mm, 25mm」が正となります。設計図書を後日訂正いたします。</p> <p>(3) 「特記仕様書27-6-1(2)材料」の記載のとおりです。</p>